



 福岡銀行

飲料・食品・医薬など
幅広い分野に生産設備を
提供する技術者集団。

株式会社 西部製作所

代表取締役
西村 栄次郎 氏

取引店／福岡銀行 雑餉隈支店

■会社概要

創業:1965年／創立:1976年／所在地:福岡県糟屋郡須恵町／資本金:1,200万円／従業員:約45名／事業内容:ステンレス製食品タンク製造、サニタリープラントエンジニアリング(食品製造設備・鋼構造物工事業)／事業拠点:(本社および工場)糟屋郡須恵町(工場)福岡市博多区、糟屋郡宇美町(関東営業所)東京都板橋区

会社ホームページは
こちらからどうぞ!





SSE

株式会社 西部製作所

本社工場前
(左から西村社長、柴戸会長)

ステンレス鋼の特性に いち早く注目して導入

ステンレスタンクの製造を主力業務とする当社の事業が始まったのは1965年。創業者である義父・浜田勲はまだいさおは戦前、航空会社のエンジニアとして働き、戦後になって郷里の鹿児島から福岡へ移り、食品機械製造を手がける鉄工所に入社して機械の設計業務に従事しました。その後、独立起業を果たし、福岡市博多区にて有限会社西部乳機製作所を立ち上げました。

この会社が当社の前身となるのですが、設立当初から近年まで乳業メーカー向けのサニタリータンクが事業の中心でした。製造工程において飲料を貯蔵、調合、発酵、殺菌するためのタンクは衛生性が重要で、当時、海外から入ってきたばかりのステンレス鋼は、ステンレスII錆びない」という名称が示す特性から、飲料や食品製造にうってつけの素材だと、日本でも大いに注目されたようです。当社は、九州でいち早くこのステンレスを導入した数少ない企業の一つだったと聞いています。

技術者の育成と 厳格な検査システムで 高水準の品質管理を実現

現在、様々な飲料や食品の生産現場で、当社の製造した設備が稼働しています。そしてその設備は、人の口の中に入るものを製造するものだからこそ、雑菌や異物の混入は絶対に避けなければならないという厳しい条件が前提となります。

そのため、当社や同業者が製造するサニタリータンクは、石油化学コンビナートや化学プラントなどの設置されるタンクに見た目は似ていても、衛生面で求められる水準の上で全くの別物と言っても過言ではありません。

また、牛乳用タンクメーカーとして発足し、サニタリー規格製品に必要な技術とノウハウを積み上げてきた当社ですが、そもそもサニタリータンクの製造に関しては、AI化の時代にあってもその導入は難しく、職人の溶接技術や製缶技術に頼るところが大きいのが現状です。

製品の安全性を考えると、適切な材料の選定や異物混入が起りにくい設計はもちろんですが、接合部などの精度の高い仕上げで





西村社長

液だまりをゼロにするのも重要な点となります。精度を高めることは洗浄性や分解性能の向上にもつながります。そうするためには、確かな溶接と研磨の技術、さらには小さなキズさえ一つとして見逃さない職人のこだわりが不可欠なのです。

理想的な製造環境を実現するために当社では、技術者の育成に主眼を置いた教育体制の構築と並行して、独自の検査システムに基づいた徹底的な品質管理に力を注いでいます。もしも各工程において、当社基準に照らし合わせて品質面で不十分と判断された物は、前工程あるいは前々工程へと戻し、再製造を行うといった具合に、妥協を許さない体制を確立しています。

言うまでもなく、同業他社においてもそれぞれに検査システムを有していますが、肝心なのは、どこまで細かく徹底して行えるかだと、

私たちは考えています。サニタリータンク製造を手掛ける会社は日本全国に50社ほどあり、当社は規模的には中堅どころと言われるかもしれませんが、品質管理の徹底に関しては大手に勝るとも劣らないレベルにあると自負しています。

本気で頼まれたものを 断るわけにはいかない

私自身の話をしますと、事業経営者を目指すようになったのは、父が不動産事業を営んでいたこともありですが、修猷館高校の在学中に友人からビジネスの話ばかり聞かされて、刺激を受けたのが大きかったように思います。

その友人も現在では会社の経営者として活躍していますが、高校生の時から税金や経営ノウハウの本を読み漁っていました。感化された私も、日本マクドナルド創業者である藤田田氏の本に出会い、ビジネスの面白さに目覚め、飲食店経営に惹かれるようになっていきました。早稲田大学でマーケティングを深く学んだのも、その後の事業に役立てるためです。

さまざまな業態の飲食店で働いて実務的な知識の幅を広げ、さらに百貨店に入社して



11 9



7



8



10



1.対談風景/2.3.4.5.6.工場見学風景/7.製品の製作風景/8.9.サニタリータンク施工事例/10.サニタリー配管工事例/11.企業メッセージ



最前列左4人目から西村社長、柴戸会長、中川支店長(福岡銀行、現・小倉支店長)

ビジネスパーソンとしての経験も手に入れ、20代でフレンチレストランを構えた私は、順調に経営を軌道に乗せていきました。

そんな折、義父が重い病に罹りました。会社の先行きを案じた義父から声が掛かったのですが、私はまったくの異業種に身を置いていたわけですから、当然のことながら妻は経営の引き継ぎに反対しました。もちろん私自身も、自分の行く手に大きな障壁が待ち受けているのはわかっていました。それでも、本気で懇願する相手の気持ちを考えれば、無下に断れるものではありません。結局、私はレストランの経営を父に譲って、30歳で当社に入社したのです。

苦しい時に 手を差し伸べてくれる人がいて

いざ入社してみると、目の前の困難さは予想をはるかに超えたものでした。まさに職人気質な人たちの集団で、私を認めてもらうためにはとても苦労しました。かなりのスピードで設計、積算、製造や溶接の技術を習得しながら、同時に一人で営業を拡大し実績を作りました。

ある程度認めてもらえるようになってから、私は会社をゆつくりと、一つ一つ変革していきました。ところが改革していくとそれに反対する人々が出て、辞めていきます。技術者の空白

ができないように新人を採用し、教育することを繰り返しましたがその途中、古くからいた番頭クラスの二人が引継ぎもせず一緒に退職したときがあり、本当に苦しい時期がありました。その時、半導体関連の某会社経営者から、「大変でしょうから、私の会社の右腕をお貸ししますよ。資金繰りも大変でしょうから、出資しましょうか?。」と言っていた時のことは忘れられません。がむしゃらに走り回っていた私に翼をくれた、まさに恩人でした。

今では、苦しい時から地道に育ててきた若手が、これまでに経験したことのない困難な仕事にも「やりましょう!」と、進んで言ってくれるようになりました。経営者として人の縁のありがたさを、あらためて実感しています。

コロナ禍にあえぐ人々のために

医薬分野でも貢献したい

大手乳業メーカー様からの引き合いで8年

前に東京進出を果たし、昨年10月に本社工場を糟屋郡須恵町に移転して生産現場を拡充しました。

当面の目標は三点あります。まずは、サニタリータンクのメーカーとして、より高品質で低価格の製品を目指していきます。次に、タンク設置に関わる配管などの特殊技術を今以上に磨き続け、全国的に戦えるレベルへの引き上げに努めていきます。そしてその延長線上に、大手食品メーカーの製造ラインを手掛けるエンジニアリングにおいて、これまで以上に実績を積み重ね、その分野での存在感を一層確かなものにしていきたいと考えています。

また、現在コロナ禍の影響で、製薬会社が開発を急いでおり、製薬会社向けの特種なタンクの需要が増えています。当社のサニタリータンクは十分製薬会社の需要に応えられる技術を持っていることから、製薬会社向けのサニタリータンクの製造に注力しています。わが国が一丸となって乗り越えなければならぬ試練に立ち向かい、一人でも多くの人の命を守るために当社の技術を役立てていけたらと思います。

■ インタビューを終えて

福岡銀行 取締役会長 柴戸 隆成



創業当時、開発されたばかりのステンレス鋼に早くから可能性を見出され、乳業メーカー向けの食品製造タンクの生産に乗り出されました。その後も、職人の技術と品質管理が重要とされる事業において、社員教育と独自の検査システムにより、高水準の製品を市場に供給し続けておられます。

近年は生産工場の拡充、関東営業所の開設、医薬分野への進出と、順調に社業の発展を実現しておられます。今後のさらなる飛躍を期待しています。



 熊本銀行

斜面・のり面対策工事を通じて
人々の暮らしと安全を守り抜く。

グリーン工業株式会社
代表取締役 藤井謙次氏

取引店／熊本銀行宇土支店

■会社概要

創業:1965年／所在地:熊本県宇土市／資本金:
3,000万円／事業内容:斜面・のり面対策工事、
吹付工(モルタル・コンクリート吹付工、既設モル
タル再生工法)法枠工(吹付法枠工、簡易吹付
法枠工)法面緑化工(種子散布工、客土吹付工、
植生基材吹付工、ジオファイバー工法)落石対策
工(落石防止網工、ロープ掛工、落石防護柵工)、
アンカー工、地山補強土工、造園工、ゴルフ場建設工事、公園造成
工事、樹木・人工芝販売、土木一式工事／事業拠点:熊本県宇土市、
長崎県佐世保市、佐賀県佐賀市

会社ホームページは
こちらからどうぞ!





グリーン工業(株)

本社前(左から藤井謙次社長、藤井貞治会長、野村頭取)

50年以上の経験と施工実績 高速道路から家屋の裏まで

当社は、1965年に日本合成化学工業株式会社との関連子会社として、大阪市北区で創業したのが始まりです。当初は、親会社の製品であるゴーゼノール(接着剤)を使用した種子散布工事などの施工を行っていました。1980年に熊本県宇土市に本社を移転し、以後は斜面のり面対策工事を中心に、高い技術力をもって多くの施工実績を重ねてまいりました。

これまで当社が施工したのり面は、九州自動車道、大分自動車道といった高速道路を中心に、新幹線、ダム、公道、家屋の裏など多岐に渡ります。これらの場所は、通常の生活においてはあまり注目されることはないのですが、地震や豪雨などの自然災害で崩れた場合には、多くの住民の生活を脅かす危険性をはらんでいます。当社の事業は、多くの人々の生活を守り、安心して暮らせる生活を創り出すことにつながっています。

近年、ここ九州では毎年のように地震や豪雨など大きな災害が起きています。特に、

2016年の熊本地震の際には、仮設住宅生活を余儀なくされる社員も出てくるなど県内の至るところで被害が見受けられました。当社の本社事務所がある宇土市は震源に近かったこともあり、住宅地の斜面などが崩壊しました。なかでも宇土市神馬団地は、崖の擁壁や地盤に亀裂が入り、とくに南端の数世帯は地滑りの恐れがあるとのこと、2年10ヶ月の間、一時避難を強いられました。当社がその斜面の崩壊対策工事を受注し、無事完工することで住民の安全の確保に大きく貢献できたのではないかと思います。

のり面の現場は手作業 課題は人材の確保

斜面のり面工事には、様々な工法があります。風化しやすい岩や風化してはげ落ちる恐れのある岩、のり面からの浸透水により不安定化する場合などに用いられる「モルタル・コンクリート吹付工」、切土のり面や自然斜面などに連続した格子枠を作ることでのり面の安定化を図る「吹付枠工」、落石の発生などの危険が予想される斜面を網とワイヤーロープ



5



3



1



6



4



2



藤井謙次社長

で覆い保護をする「落石対策工事」などです。他にも、大規模地すべりなどを抑制する「グラウンドアンカー工」、中・小規模崩壊を抑制する「地山補強土工」などです。

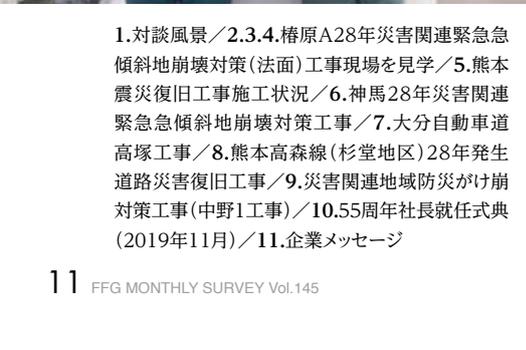
これらの工事は、重機や車両が入ることのできない斜面・のり面での作業になるため、現場作業員がロープで安全を確保した状態で、吹付作業などを行っていきます。足腰などの体力がかなり必要ですが、ベテランの方であれば60歳であっても現役で活躍してくれています。

斜面・のり面対策工事は、災害から人々の命と財産を守る重要な役割があります。自然災害が増えている中で需要は伸びているものの、建設業界はどこも常に労働者不足。特に、

若手の確保は大きな課題となっています。そこで当社でも業界と一緒に頑張って、働き方改革を進め、待遇改善や週休2日制の確保などの福利厚生の上昇に努めています。当社では、作業員も社員として雇用し、自社直営班による施工を基本とし、過去の実績に裏付けされた信頼の施工を行っています。

広告業界から建設業へ 現場を経験し、経営の道に

祖父・藤井広次が創業した当社の三代目社長となった私は、1983年5月4日生まれ。「みどりの日」に生まれたことから、「みどりの日に生まれたグリーン工業の社長です」と、自己紹介をすることがあります。ただし、若い時は跡を継ぐ気持ちがまったくなく、大学で経営学を学んだものの、その後は、福岡市の広告会社に5年ほど勤務しました。福岡には父が頻繁に出張で訪れてきて会うことも多かったのですが、会うたびに「熊本に帰ってきて会社を継いでほしい」と何度も説得をされ、戻ることを決意しました。自分がやるしかないという使命感に駆られていましたし、経営学を



- 1.対談風景
- 2.3.4. 椿原A28年災害関連緊急傾斜地崩壊対策(法面)工事現場を見学
5. 熊本震災復旧工事施工状況
6. 神馬28年災害関連緊急傾斜地崩壊対策工事
7. 大分自動車道高塚工事
8. 熊本高森線(杉堂地区)28年発生道路災害復旧工事
9. 災害関連地域防災がけ崩対策工事(中野1工事)
10. 55周年社長就任式典(2019年11月)
11. 企業メッセージ



最前列左3人目から藤井貞治会長、藤井謙次社長、野村頭取、岡村支店長(熊本銀行、現・福岡営業部長兼諸岡支店長)

学んできたこともあって「経営に挑戦してみても面白いかもしれない、やってみよう」と覚悟を決めたのです。

ただ、まったく実務経験がない息子が、いきなり戻って会社を継ぐわけにはいきません。そこで、父の知り合いだった埼玉県熊谷市にある施工会社にて、作業員として現場の経験を積むことになりました。九州内の施工会社では当社のことを知っているとかがほとんどだったため、働いても「後継ぎということでごんやかされる」と思った父の配慮でした。

それまで、広告会社でスーツを着ていた人間が、いきなり作業着で現場に行く生活となりました。大学までサッカーをずっとやっていたので体力に自信はあったはずなのですが、「こんなにきつい仕事があるのか」と驚きました。先輩の方たちは昔気質で、丁寧に教えてはくれません。体の使い方、施工のスピードなど追いつけないことがほとんどで、とにかく与えられた業務をこなすだけで精一杯という生活を続け、1年ほどして熊本に戻ったのです。

2011年、熊本に戻ってきて当社で現場管理などを行いながら、2019年に社長に就任。短い期間ながらも現場を経験したことで、



藤井貞治会長

現場作業を担う社員の気持ちを、少しは汲み取ることができているのではないかと思っております。

被災後の復興を見てきた 若い世代を新たな活力に

人材不足のため、「10年もするとなくなる会社も多い」と言われるこの業界において、社長としての私の使命の一つは、若い人材の確保です。「きつい」「汚い」「危険」という、いわゆる「3K」と言われてきた建設業界ですが、これからは「休暇がとれる」「給料がいい」「希望がもてる」という「新3K」を行政が提唱して

います。当社も新3K実現のため、ICTの活用などを行っています。ドローンによる3D（3次元）測量や生産性向上のためにソフトの導入、コミュニケーションツールのアプリの活用などです。建設業界は古めかしいイメージがありますが、デジタル化は他の業界と比べても急速に進んでいる業界ではないでしょうか。

熊本地震という未曾有の自然災害に見舞われ、その復旧・復興の様子を目の当たりにしてきた若い世代が、私たちの仕事に興味を示してくれるようになっていきます。当社でも、工業高校を中心に新卒の採用に動き、20代、30代の社員が増え、平均年齢も45歳ほどになりました。当社は雰囲気がいい会社だと言われます。私が入社した10年前も、景気はよくありませんでしたが、社内では明るい笑い声が飛びかっていました。とても印象的でした。引き続き会社の強みとして、大変な時も皆で協力できる明るい会社でいたいと考えています。この仕事は、ライフラインを守る、家や財産を守る、人命を守るという非常に社会的なやりがいがあります。その魅力をしっかりとアピールして、多くの若い人が志望してくれる業界にしていきたいと思っています。

■ インタビューを終えて

熊本銀行 取締役頭取 野村 俊巳



2016年の熊本地震は、熊本県内に甚大な被害をもたらしました。とくに道路や住宅地の斜面・のり面が崩壊したことで、ライフラインが絶たれ、多くの方が不便な生活を強いられることとなりました。そのなかでグリーン工業様は、多くの復旧工事に尽力され、災害復興に大きく貢献されています。

若い世代も被災を経験したことで、将来は地域に貢献できる仕事に就きたいと望むようになっていきます。今後もそんな若者とともに、地域住民のよりよい暮らしと安全な生活環境を創るために、確かな技術で、さらに発展されることを期待いたします。



JS 十八親和銀行

100年を越す歴史と確かな品質で、
佐世保から世界一の鋼管メーカーへ。

大阪鋼管株式会社

代表取締役社長
坂根 毅氏

取引店 / 十八親和銀行 佐世保駅前支店
福岡銀行 佐世保支店

■会社概要

創業:1921年 / 設立:1933年 / 所在地:長崎県佐世保市 / 資本金:1億円 / 従業員:122名 / 事業内容:冷間引抜鋼管製造、高炉メーカー製鋼管の販売、各種鋼材販売、不動産賃貸 / 事業拠点:(本社・工場)佐世保(営業所)東京、大阪、広島、小倉、大牟田、長崎、大分、熊本 / グループ企業:針尾テック、OKKテック、大阪鋼管物流、住ノ江海陸運輸、シビルテック、クギマチ、丸友商事

会社ホームページは
こちらからどうぞ!





本社前(左から坂根社長、森会長)

国内初の引抜鋼管の技術 大阪から佐世保に移転

当社の創業者・野邊市治郎のべいちじろうは滋賀県の生まれで、生家は油売りと煙草栽培と煙草製造業を家業としていたそうです。その後、煙草製造が政府の専売になり、家業を失うことになったことから、市治郎は将来性を見据えて1912年に、軍払い下げの金属物件を主体とした入札業を個人商店として大阪市で始めたと言っています。

市治郎はその事業を通じて、当時、大阪市のガスタンク建設のために来日していたドイツ人技師と知り合いになります。その技師と親交を深めたことをきっかけに、ドイツのマンネスマン社の工場を訪れ、パイプの製造法を修得して帰国。まだ18歳ながら、日本で初めて引抜鋼管の製造を始めました。ちょうど日本全体が近代化に向けて前進していた時代で、市治郎の技術は大いに注目を集めたそうです。その後、今から101年前の1921年に、現在の大阪市西淀川区に引抜鋼管製造工場を建設し、「合資会社大阪鋼管」を設立しました。

1933年には大阪鋼管株式会社と組織名称を変更し、本社並びに冷間引抜鋼管工場を新設するとともにドイツ人技師を招聘し、本格的に操業しました。1935年には東京工場、1937年には朝鮮工場（現在の韓国・ソウル近郊）を新設し、大阪を本拠地とした3工場での生産体制を整えるまでに至りました。しかし、第二次世界大戦の最中、空爆によって東京工場は全焼。大阪の本社工場も一部を焼失し、朝鮮工場も接収され撤退を余儀なくされました。自らの工場だけでなく多くの取引先も失ったことから事業を続けることが困難となっていたところ、市治郎は朝鮮工場から引き揚げてくる社員の入港地であった佐世保に足を運びました。その中で、造船業界との関連が深いこの佐世保の地で工場再開の話が上がり、旧海軍の魚雷倉庫の払い下げを受け、本社と工場を佐世保に移転。再スタートを切ったのです。

工場移転を機に多角的経営へ 3代目のチャレンジ精神

造船関連向けの鋼管供給で、戦後の困難な





坂根社長

時期を乗り越え、1959年には、住友金属工業株式会社（現・日本製鉄株式会社）と資本提携を締結。冷間引拔鋼管製造での技術提携や、専門的な鋼管の販売での提携を推進していきます。1968年には、西九州の交通の要所である早岐に近い佐世保市大塔町に、本社と工場を移転拡大し、効率的な生産体制を整えました。

現在に至るまでの一つの大きな転換期となったのが、1996年、現在の佐世保市針尾北町への工場の移転です。3代目社長となる父・坂根康伸^{やすのぶ}が社長に就任したばかりの頃の話ですが、その頃から主力である造船業が

不況となり、父は早速事業の多角化に乗り出しました。

まずは、大塔町にあった工場の跡地に大型ショッピングセンターの建設を推進し、不動産賃貸事業に着手。その後もフィットネスクラブ、飲食業など、他業種にも次々に進出してきました。

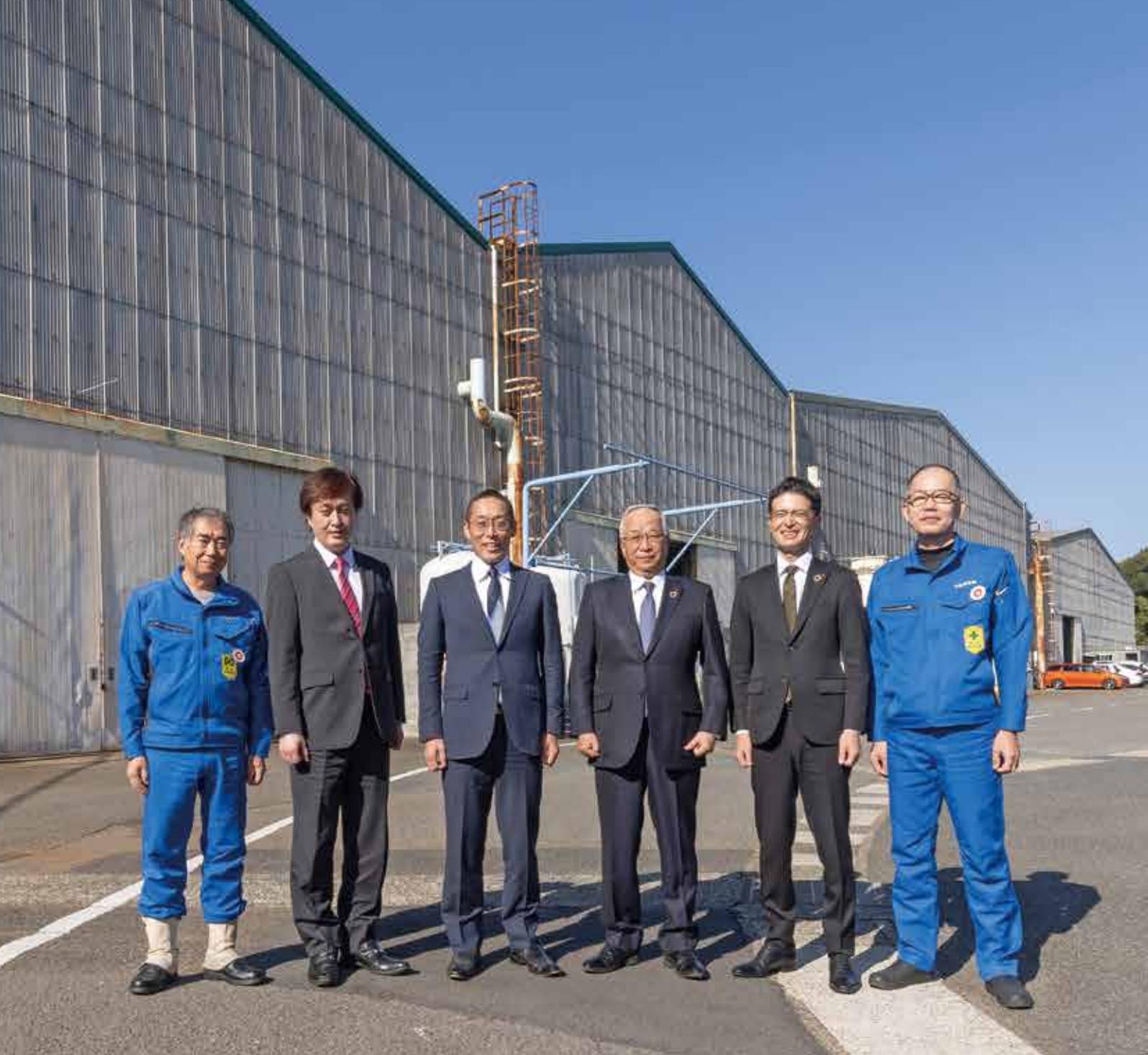
実は、父は九州大学農学部で教授になる道歩んでいたのですが、母の実家である当社の経営者に転身したという経緯があります。その父がよく言っていたのが、「人間到る処青山有り」の言葉。この言葉に込められている「きちんとやっていたら、どこでもやっていける」という、父のチャレンジ精神によって、当社もまた一つ大きくなったと感じています。旧工場があった場所は、現在「イオン大塔ショッピングセンター」として地域の方々に親しまれ、地域経済の発展に貢献しています。

初仕事は子会社の立て直し 社員とともに、新しい時代へ

私は東京大学工学部を卒業後、ヤマハ発動機



1.2. 自社製品紹介コーナー／3. 対談風景／4.5.6.7. 工場見学の様子／8. 技術力の高いベテラン社員が多く活躍／9. 資材置場／10. 製品検査室／11. 企業メッセージ



左から渡辺生産本部長、本城管理本部長、坂根社長、森会長、森田支店長(十八親和銀行、現・住吉支店長)、永安工場長

株式会社に入社。4年ほど勤めた後、2005年6月に当社に入社しました。また同時期に、九州大学ビジネススクールにも入学して、当社に籍を置きつつも、同時並行でシステム関係のベンチャー企業を起業するなど、ビジネスや組織運営などについて学んでいました。

2011年の10月から本社に戻ったのですが、その直前に、「グリフィンランド」のブランド名で知られるスーツケースのインターネット通販会社クギマチをM&Aすることが決まりました。専務として全経営を任せましたが、M&A直後から品質、組織、調達など、思わぬトラブルに苛まれました。残った社員と新しく採用した社員により1年ほどでなんとか軌道に乗せ、以降は楽天のショップオペザイヤーの栄冠に何度も輝く会社になりました。軌道に乗せて少し安定し始めた2013年には当社の生産本部長に就任。2016年には副社長に就任します。就任が決まった3週間後、父の病気が発覚し、1年後、39歳で社長に就任することとなりました。

社員は皆とても優秀で、社内のコミュニケーションも良く、私にもよく声を掛けてくれます。

この社風にとっても助けられてきたと感じています。

あらゆるニーズに対応できる

冷間引抜鋼管で世界に進出

当社の主力事業である「冷間引抜鋼管」とは、熱間製品に比べて、高い寸法精度での製造が可能であり、表面の仕上がりも滑らかなになります。その特性が活かされ主に、発電所・石油精製所などの熱交換器用パイプ、船舶部品、建設機械部品などに使われています。炭素鋼、合金鋼、低温鋼についてはJIS規格の他、ASTM、ASME、ENなど世界各国で使用される規格品や船級規格品を製造しています。寸法は、外径は4〜165.2ミリの範囲、長さは21.5メートルまでと日本一の製造能力を誇っています。また、独自の技術により異形鋼管から各種2次加工まで、幅広いニーズに対応することも可能です。

現在は、東京や大阪など全国に9カ所の営業所と4カ所の倉庫を持ち、佐世保から全国に向けて事業を展開しています。今後も

100年を越す経験に基づく高い知識と技術力・アフターサービス力によって、特色あるメーカーとしての地位をより確立していきたいと思っています。

鋼管製造業の国内での需要は安定しているものの、人口減少などの影響もあり、今後は大きな成長が望めません。そこで今、タイやベトナムなどの東南アジア、インドを中心とする南アジア、さらには西アジア向けに、販路を開拓していきたいと思っています。

これらの地域では、人口増加によって今後、発電所などの需要が高まっていくことが予想されています。現在は、安価かつ品質上の問題が多い他国製品がかなり出回っているのですが、当社の確かな技術によって生み出される品質、安全性を理解してもらい、採用してもらえようアプローチを開始しています。海外への事業展開は、今後の当社の成長に欠かせません。私の代で、ぜひとも実現したいと思っています。

■ インタビューを終えて

十八親和銀行 取締役会長 森 拓二郎

戦後、佐世保市に本社・工場を構えられ、「鉄を尊び鉄と共に栄ゆ」という言葉を社是として、確かな製造技術と品質管理の下、冷間引抜鋼管製造において全国トップクラスの実績を残しておられます。また、鋼管製造のみならず不動産賃貸事業を含め、佐世保の活性化に大いに貢献されています。

今後はここ佐世保の地から世界に広く認められる高精度鋼管メーカーとして羽ばたかれることを期待しています。

